

令和6年度稲城市地域自立支援協議会（第3回）

〈議事録〉

日 時：令和7年1月20日（月）

15時00分～17時00分

場 所：地域振興プラザ4階 大会議室

1 議題

- (1) 相談支援部会報告
- (2) 精神保健福祉部会報告
- (3) 子ども部会報告
- (4) その他

地域自立支援協議会へ伝えたいこと（+ laugh イナギ）

2 出席者

(1) 委員

役職	氏名	選出区分	組織名等
会長	藏野 ともみ	学識経験者	大妻女子大学
副会長	青野 修平	教育・雇用関係者	社会福祉法人 正夢の会
	鈴木 英之	相談支援事業者	稲城市社会福祉協議会
	石川 哲	福祉サービス事業者	NPO 法人わくわく
	村上 愛美	福祉サービス事業者	社会福祉法人 正夢の会
	熊倉 恵美	保健・医療関係者	東京都南多摩保健所
	津野 由記子	保健・医療関係者	島田療育センター
	櫻井 真紀子	教育・雇用関係者	都立多摩桜の丘学園
	進藤 直人	障害当事者団体	稲城市身体障害者福祉協会
	高野 玲子	障害当事者団体	稲城市精神障害者家族会

(2) 事務局

稲城市	福祉部	山田部長
	福祉部 障害福祉課	眞下課長、中山係長、森橋係長、野口、篠田、森下、大山、 江藤
稲城市社会福祉協議会		山崎
マルシェいなぎ		木下

(3) 傍聴者 2名

3 配付資料

- 資料1 令和6年度 稲城市地域自立支援協議会 委員一覧
- 資料2-1 令和6年度 第3回稲城市相談支援部会 報告
- 資料2-2 事業所との協働による支給決定ガイドラインの作成を通して
- 資料2-3 稲城市支給決定ガイドライン
- 資料3-1 令和6年度 第2回稲城市精神保健福祉部会 報告
- 資料3-2 令和6年度『にも包括』協議の場の取り組みについて
- 資料4 令和6年度 第2回子ども部会報告
- 資料5 地域自立支援協議会へ伝えたいこと(+laugh イナギ)

4 議事内容

(1) 議題

① 相談支援部会報告

令和6年度第回相談支援部会について事務局から報告を行い（資料2）、委員から以下の意見があった。

No.	委員からの主な意見	事務局の説明
1	地域移行事業は今後どのような動きになるか。事業所のなり手はないか。 また進捗を教えてください。	市内に地域移行支援事業所はないので本事業の進みが遅い面がある。都内で事業所がないのは稲城市と他1市のみ。 市内で1事業所立ち上げを予定している。年に1件～2件でも開始出来るよう準備している。
2	わかき福祉会と東京都（の担当者）から地域移行の話を聞いてその後、どうなったのかお話を聞きたい。	
3	医ケア者児の災害時の支援計画はどのようにしていくか。医ケア者児の方が一番深刻であるのでここが突破口になればと思う。協議会の立ち上げをぜひ進めて欲しい。 防災訓練の様子もお話したい。今はバラバラで縦割り。薫をもつかむ思い。災害弱者の実行委員会を作っている。本来は行政として社協としてどう取り組むか。問題意識を持ち続けてほしい。	災害児の部署との関連もあるので、今後、医療的ケア児の支援について協議会で一緒に検討していく。協議会の在り方（メンバー、内容）位置づけについては他市もまちまち。子ども部会でまとめ、議題としてこちらに上げます。R7の議題の一つと考えている。
4	過去に家族が入居先のグループホームを他県まで探し回ったという話があったが、家族会ではそのような報告はない。そういうことを無くしてほしい。	相談支援事業者向けに共有した。ご家族だけでは荷が重い。相談支援の方も一緒に探してほしいと伝えている。

5	支給決定ガイドラインは、安心、ブレずにこれを見ながらできる。一人一人の意見は千差万別だが、ガイドラインに沿ってやっていることはおちやすい。嬉しいこと。要望があれば出していきたい。権利擁護の意識が大切。	
6	ガイドラインは事業所も知っておくべきもの。ホームページの事業所のお知らせの所に入ったりするか	事業所向けにホームページに掲載する。市民向けは、これから検討する。

② 精神保健福祉部会報告

令和6年度第2回精神保健福祉部会について事務局から報告を行い（資料3）、委員から以下の意見があった。

No.	委員からの主な意見	事務局の説明
1	日本全体の問題。精神医療は世界から立ち遅れている。精神障害に限らず、高齢者、知的の人、グループホームから出すという取り組みが進んでいる。居住支援が大事。	
2	精神障害者が住居を借りにくい問題。大家さん側は空き室よりも借り手がつく方がいいが、やはり貸してくれない。大家さん側が何を考え何を望んでいるのか、対話の機会があればいいのではないか。できることから。居住支援協議会というと高齢者、ホームレス、多岐にわたる。話し合いを続け、対象を広げていく活動をしていくことが大切である。 初めから正面からお願いをしても民間は利益がないと応じてくれない。時間がかかる、人脈を使う。重層事業と関係がある。精神障害だけで攻めるよりは戦略を変えることも。	

③ 子ども部会報告

令和6年度第3回相談支援部会について事務局から報告を行い（資料4）、委員から以下の意見があった。

No.	委員からの主な意見	事務局の説明
1	児童の緊急一時保護について。保育士とセットで預かりという部分、説明を	緊急時の児童の預け先がないことが課題。パサージュいなぎで成人の緊急一

	して欲しい。	時事業を実施している。児童の場合、緊急時に見ることができる人がいない、体制がない。子どもを見てくれる保育士等もセットで預かりの時に保育にあたる体制が取れないかパサージュいなぎに相談をしたところ、自立支援協議会で需要があることをしっかり確認の上で検討したいとの返答であった。今後、検討していく。
2	事業所が増えていく中で事業所連絡会でも温度差や問題が出てくるかも。やはり親の気持ちが大切。事業所は支援者。支援者の中には当事者がいるが、事業者の代表として連絡会に来ると支援者としての意見になる。そこから拾い上げないと本当の地域課題にならない。今後、医ケアも含めて当事者も含めて欲しい。	

④ 地域自立支援協議会へ伝えたいこと(+ laugh イナギ)

+ laugh イナギから協議会へ伝えたいことを報告し、参加者から以下の感想があった。

No.	委員からの主な意見	事務局の説明
1	(学校関係者) 医療的ケアが必要な児童生徒が多数在籍している。人工呼吸器による呼吸管理、医療の進歩。今までは病院から出られない重度の子どもたちが自宅、地域で生活ができる。その先に教育の場、学ぶ権利の保障。責務が学校に課せられていると思っている。学校を卒業してから福祉の事業所へと近い未来に広がり求められてくる。障害福祉課の皆様と連携して稲城市の未来について、情報をお伝えしたい。これからの在り方を求めて頑張っていきたい。	

⑤ 1年の振り返り(スクリーンにて)

4月・10月 採用時職員研修「合理的配慮について」

7月 在職2年目職員対象「障害福祉研修」

10月 自主防災組織特別研修会「避難所における障害のある方への配慮について」

- 11月 講演会「精神障害者への理解について」(社協主催、市後援)
 12月 「こころのサポーター養成研修」開催(R6～厚労省開始事業)
 障害者週間イベント 映画放映「いなぎで自分らしく生きる」等
 いなぎパラアート展示、いなぎB ネット紹介、販売

委員より一言 他

No.	委員からの主な意見	事務局の説明
1	<p>障害福祉課の頑張った実り多い1年。障害者週間に関しては、3年前から「当事者不在の障害者週間って何だろう」という問題意識がきっかけでアートから始めた。障害福祉課も含めて有志の会、一人一人がみんなボランティアである。自立支援協議会で取り組んでいるべきことである。今回集客ができなかった。みんなでアイデアを出していく。</p>	<p>障害者週間については課題はあった。今後、どう解決してアプローチしていくか、皆さんの意見を聞きたい。今後とも宜しくお願いします。</p>
2	<p>B ネットは12月は制作活動等で忙しい。障害者週間で商品が完売したところもあった。啓発などもっとやっていきたい。</p>	
3	<p>昼間の災害時に子どもが戦力になるという話をするところがある。大人はいない。近隣のお年寄りをどう助けるか。子どもたちと一緒に何かできないか。</p>	
4	<p>防災訓練に参加し非常に勉強になった。自分ができることはお手伝いしたい。共に助け合う社会をさらに広げていきたい。</p>	
5	<p>障害者プラン「わかりやすい版」ができたことが印象的であった。部数が少ないのでたくさん印刷して当事者が学べればよいと思う。部会でも最近、他部署</p>	

	との連携などが多く全体像が分かりにくくなってきた。「にも包括」の協議の取り組みについて。この後の全体のイメージマップがあるはず。そこが見えず悩ましい。	
6	自分の立ち位置でできることを精一杯やっていきたい。	
7	楽しくやりたい、笑いのある自立支援協議会にしたい。問題が整理されたり、やるが増えたり、仕事が多くてこの辺が限界かなと感じることもある。なり手担い手がいない。稲城のコンパクトな顔の見える付き合いの中であるものを作りたいという気持ちが伝わる良い会だと思う。	
8	この会は「熱いな」と思うことが多い。楽しく参加している。次につながる1年になった。来年度はプランの評価をし、できていないところはどうか協議をする場にもなると良いと思う。	
9	部会のメンバーが重複していて限られたマンパワーの中で縦割りではなく、それぞれができること以上の事をやる。手を取り合ってやっている、これが求められていることなのだなと感じながら参加した。皆の連携のイメージを一つにしていくとできることが一つ増えるのではと思いながら参加した。来年も協力できればと思う。	
10	きちんとつながないと支援が受けられない、つないだらうまく支援が入ること	

	<p>が分かった。医ケア児の協議の場ができることを楽しみにしている。当事者家族の意見を直に吸い上げられるような人に参加してほしい。行政に働きかける場になればいい。</p>	
11	<p>(福祉) 業界は人手不足。しかし事業所は増えている。社会資源はない。福祉は儲かるという現状がある？誤解？</p> <p>稲城市は質の高い事業所が増えて欲しい。</p>	
12	<p>現場に戻って会の報告をしたい。勉強を続けていこうと思う。</p>	

次回、令和7年度 7月14日(月)15時～地域振興プラザ 大会議室